

二〇二二年一〇月八日

秋草に総入れ替へや花時計
譲り合ふ足湯の席や翳雲
余震なほつづきて長き夜なりけり
葉飲む水にむせたる寒路かな

二〇二二年一〇月七日

のびやかな子規句碑愛でつ萩の寺
秋深し妻の介護の日々なりし
運動会児らのゴールはママの胸
爽やかや喫茶営む老二人
島つなぐ送電線や秋澄める
月明りあまる川原の外湯かな
前撮りの主役は嫁御薄紅葉
撫で肩におはす観音秋気澄む
秋空を遊泳せるは錦鯉
寺宝なる松の根元にこぼれ萩

二〇二二年一〇月六日

海原を分けて渚へ月の道
白垂なる仏陀や萩を籬とす
小さき字の母の家計簿秋灯下
藁の香を撒きちらしゆくコンバイン
遠山も手がとどきさう秋澄める

二〇二二年一〇月五日

こぼれ萩連理の句碑を荘厳す
一日に一便のバス秋高し
寺訪へば風のもてなし萩白し
秋風に心ゆだねてLETTITBE
礼状はパクリと葡萄食む動画
渡り蝶色なき風を捉らへけり
手開きの鯛が光るつみれ汁
虫喰ひの穴より香るくわりんの実
森林の奉仕活動小鳥来る

二〇二二年一〇月四日

校庭に並ぶ赤帽秋高し
萩散るや碑に刻まれしマリア像
イナバウアーして枝先の毛虫かな
説法の漏れくる萩の寺苑かな
海道を高舞ふ鳶や秋遍路
焼き芋の皮剥く母の目の力
露けしと野辺の地蔵の笑ひをり
纏れては風にほぐるる秋桜
憩ふ蝶シンバルのごと翹あはす
すり寄りて猫の離れぬ秋思かな

二〇二二年一〇月三日

名水をたつぷり汲んで新豆腐
頂きへ道は岩場や濃竜胆
走り根に足なとられそ茸狩
這ひ這ひの動画に秋思忘れけり
一軒のための電柱芋嵐
黙想の家に団栗落つる音
漣に綺羅揉みやまぬ秋日かな
市松に彩る峽の裾田かな
瀬の楽の変はり錦秋始まりぬ
大盛りに供へし今朝の今年米

二〇二二年一〇月二日

鯨の竿蟹が万歳して釣れり
参道の幟褪せたる秋祭
おぼしまに凭れるように式部の実
豊作の風の膨らむ米どころ
爽やかや大手を振つて朝散歩
聖堂の練堀長し蔦紅葉

豊実

ぼんこ

あひる

たか子

凡士

あひる

素秀

満天

明日香

たかを

凡士

素秀

明日香

はく子

凡士

むべ

隆松

素秀

みづき

千鶴

なつき

素秀

ぼんこ

宏虎

菜々

凡士

せいじ
花茗荷
むつぎ
なつき
たか子
たかを
智恵子
ぼんこ
宏虎
素秀
もとこ
はく子
豊実
ぼんこ
智恵子
たか子
なつき
宏虎
せいじ
ぼんこ
みきお
たか子
千鶴
あひる
千鶴
もとこ
たか子
豊実

毎日句会みのる選・二〇二二年一〇月一〇日